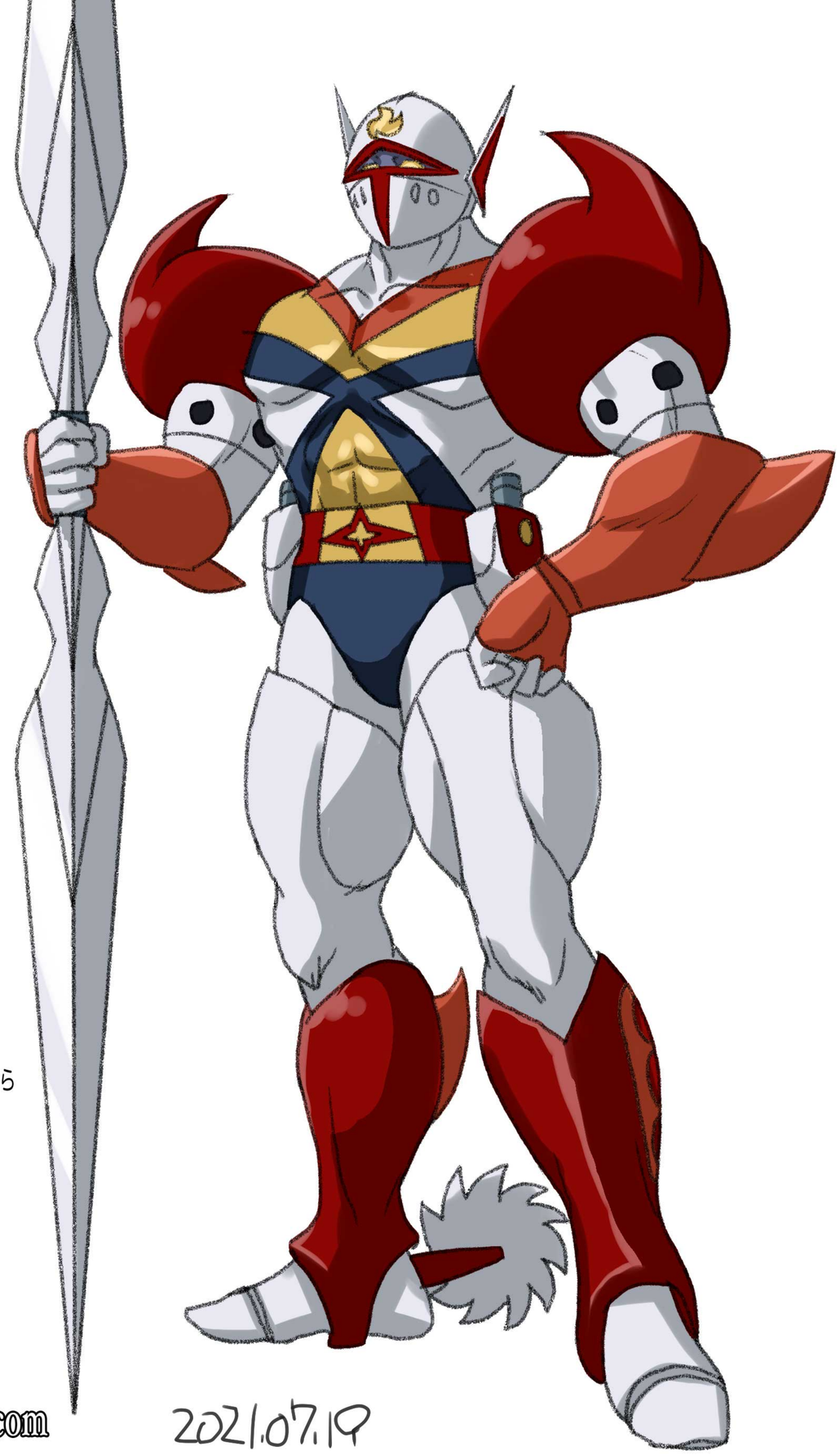
宇宙の騎士テッカマン

『宇宙の騎士テッカマン』（うちゅうのきしテッカマン、英語表記:Tekkaman, The Space Knight）は、タツノコプロ制作のSFアニメ。
1975年7月2日から12月24日にかけて、NETテレビ（現・テレビ朝日）にて放送。全26回。

【概要】
『新造人間キャシャーン』『破裏拳ポリマー』に続く、タツノコSFアクションヒーロー第3弾。主人公の南城二が変身するヒーロー「テッカマン」は、中世の鉄仮面をモチーフとしている[2]。監督は前半を笹川ひろし、後半を鳥海永行が務めた。制作当時の大ヒット映画『日本沈没』や『ノストラダムスの大予言』などに代表される終末ブームと、公害などの社会問題といった様々なテーマがストーリーに絡む、シリアスな作品である。映像面では、舞台である宇宙の無重力を表現するために慣性を活かした殺陣[4]、エアーブラシを使用した特殊効果、『タイムボカン』と同じくスキャニメイトによる画像変形技術をオープニングに採用し、かけ声にエコーをかけるなど音声面でも工夫を凝らした意欲的な作りとなっている。こういった作風には、宇宙版『ガッチャマン』という意図もあったという。第11話「失われた宇宙船」は傑作エピソードとして名高い。しかし、前年の他社のテレビアニメ『宇宙戦艦ヤマト』が打ち切りになったように、宇宙モノを当てるのは難しいという当時のアニメ業界のジンクスを破ることはかなわず、本作も半年で打ち切りとなった。最終話は、敵の集団ワルダスターの巨大宇宙要塞に雄叫びを上げて決戦に挑むテッカマンの姿で終了し、結末は描かれていない。1年間の予定で構成されたストーリーが本格的に動く前に終了したことから多くの謎が残されたが、1990年代にパイオニアLDCが発売したLD-BOXの解説書には第3クール以降の構成案も掲載されており、これによって本来の最終話までのストーリー進行と謎の一部が明かされている。構成案によると、第27話からはリープ航法で人類の移住先探索に旅立ったテッカマン一行とワルダスター艦隊の新たな闘いが、大宇宙における未知の自然現象を交えながら描かれる予定だった。また、第1話で死亡したと思われていた城二の父がワルダスター側のテッカマンとして現れ、悲劇の親子対決を繰り広げるほか、ワルダスターを率いる宇宙帝王ドブライの正体は「全宇宙の意志」ともいえる不滅の超生命体であることが明らかになり、「自らの母星を公害で滅ぼした地球人の宇宙進出は許されない」という終盤の展開も練られていた。その終局については、「激闘の末にワルダスター艦隊との最終決戦を制したテッカマン一行は人類の移住可能な惑星を遂に発見するが、その星の先住民は核戦争で死に絶えており、大地も荒廃して久しい状態だった。しかし、クリーン・アース計画を転用すれば復興可能である」という結末が、脚本の陶山智らによって構想されている。17年後の1992年には当作の設定を換骨奪胎したテレビアニメ『宇宙の騎士テッカマンブレード』が製作され、本作が成し得なかった結末を描ききっている（ただし、設定や構想の一部が流用されはしたものの、まったく別の世界観に基づいて作られたため、続編ではない）。
2015年5月27日には、キングレコードよりBD-BOXが発売された。

【ストーリー】
21世紀、人類は宇宙へ進出し始めていたが、地球はそれまでの環境破壊によって植物は死に絶え、数年後には死の世界になる運命だった。環境回復のために「クリーン・アース計画」を行ったものの、すでに地球の環境は回復不可能なレベルに達していた。宇宙開発センターの天地局長らは全人類を他の天体に移住させる計画を実行させるため、超光速航法（リープ航法）の開発に全力を注いでいた。そんなタイムリミットの迫る地球に、宇宙征服を企む「悪党星団ワルダスター」が突如襲来、地球に総攻撃を開始する。主人公・南城二は天地局長が開発した身体能力を飛躍的に高める装置「テックセットシステム」で超人的能力を持つ「テッカマン」に変身し、ワルダスターの円盤群を退けることに成功する。そこへ特殊能力を持つ謎の男・アンドロー梅田が現れ、城二に地球人以外にもワルダスターに反逆する宇宙人がいることを教えるが、城二は頑なにそれを信じない。しかし天地局長はアンドローの知識と能力を買い、城二とコンビを組ませる。最初は険悪だった二人だったが、しだいに互いを認め合うこととなる。それを見た天地局長は、開発センターの研究員であり娘でもあるひろみ、アンドローについて来た異星の生物・ムータン、テックセットシステムを内蔵したロボット・ペガスを加え「スペースナイツ」を結成、ワルダスターから人類を守る任務を命じた。だが、リープ航法が実現しなければ、ワルダスターを退けたとしても人類は滅んでしまう。スペースナイツはワルダスター撃退と共に、リープ航法を持つ宇宙船を無傷で手に入れる手がかりを掴もうとするが・・・。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



1975年

https://majingai.x.fc2.com

2021.07.19

宇宙の騎士テッカマン

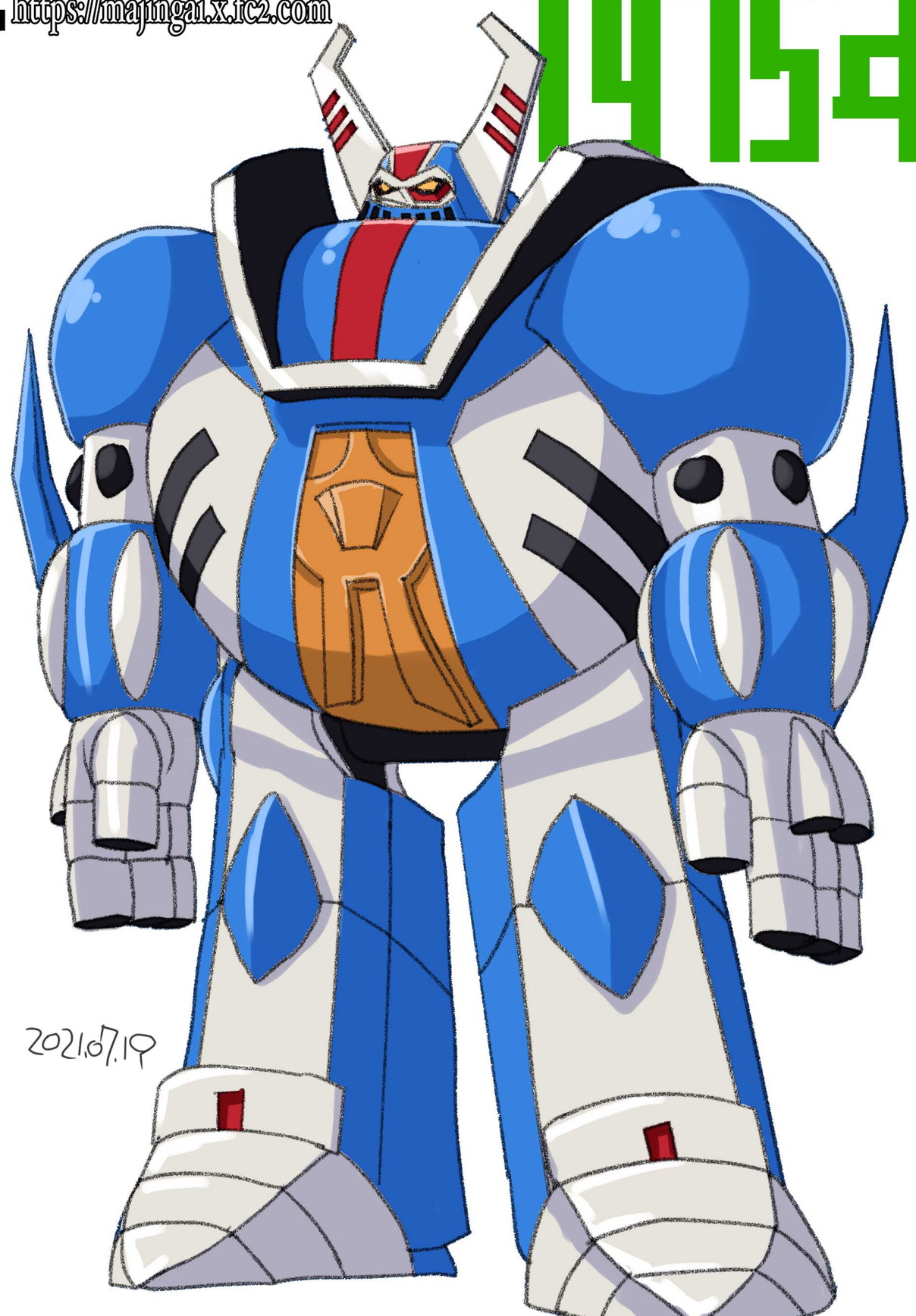
https://majingai.x.fc2.com

1975年

【テックセットシステム】
天地局長が開発した宇宙活動用のシステムが「テックセットシステム」である。このシステムは宇宙開拓をよりスムーズに進めるため、宇宙服なしでも真空の宇宙空間を活動できるように研究していたものを実用化したものである。そのシステムを使って肉体を強化した人間を「テッカマン」と呼ぶ。

【テッカマン】
ペガス体内にあるテックセットシステムを使用し、人間の細胞を凝縮強化することで、あらゆる環境に対応できる超人「テッカマン」が誕生する。テックセット時には、次のプロセスを経る。
「ペガス！テックセッター！」と城二が呼ぶ。ペガスが認識し「ラーサー！」と応える（これで脚部のセッタールームが開く）。
1 セッタールームに進入し、ステップに乗り、「パワーラップ！」と叫ぶと認識されセッタールームが閉じる。
2 セッタールームのターミナルグリップを握ると細胞を凝縮強化するために全身を鎖帷子が覆う。
3 全身が強固なプロテクターに覆われる。
4 ボルテッカ（武装用エネルギー）が旋回しながら額にセットされる。
装着完了後に特殊な高圧電流が全身に注入流され細胞が凝縮強化・プロテクターがカラーへ変わる。
この結果、プロテクターに覆われる時に瞳に装着した黄色の目に反射して映る瞳の瞳孔が消える（この高圧電流が通電すると共に細胞強化するが、ペガスの波長が合わない者は大やけどを負うか焼死する。しかも適合する人間は極一部であることが分かっている）。宇宙空間の活動を目的としているがスラスターの類はなく、専ら慣性移動を行うかペガス騎乗にて移動する。
テックセットシステムには改良の余地があり、テッカマンになるには特別な波長を受け入れられる体質と変身の苦痛に耐えうる強靭な精神力と体力が必要で、今の時点ではテッカマンになれるのはシステムに適合する極少数の限られた人間のみである（劇中では南城二以外に、ワルダスターにさらわれ操られた少年・ビリーが変身しているのみで、ワルダスターの兵士が実験で変身した際には適合せず黒焦げになっている）。城二やビリーがテッカマンに変身できたのも偶然であり、ビリーは「地球人だから変身できるだろう」という根拠のないワルダスター側の判断でテックシステムにかけられ、奇跡的にテッカマンに変身できた事が作中で語られている。適合のメカニズム自体不明な点が多く、城二は1回目のテッカマンへの変身後、変身の副作用で倒れている。また、テッカマンの変身時間には時間制限があり、一定時間を過ぎると肉体の細胞が崩壊してしまい適合者でも死んでしまう。宇宙パイロットとして鍛え上げられた城二の肉体も例外ではなく、37分33秒までしか肉体強化を維持することはできない（この数値もまた城二に限られており、他の適合者がどの位維持できるかは不明）。
また、生涯テックセットしていられる時間も限られている（LD-BOX解説書に記載）。エネルギーが完全に尽きるとプロテクターは分解、仮死状態となってしまうが、時間制限内なら肉体強化が続いているため生身で宇宙空間に放り出されてもすぐに死ぬことはない。ただし、制限時間内にペガスの蘇生エネルギーを受けなければ死んでしまう。

【ペガス】声 - 徳丸完
テックセットシステムを内蔵したロボット。天地局長が3年の歳月をかけて完成させた。人工知能を持ち、言葉も話すことができる。2本の足の中に人を入れるスペース（セッタールーム）があり、中に入れた人間をテッカマンに変身させる。変身後のテッカマンは球状の胴体を経て背中のハッチから外に出る。名前の由来は天馬ペガサス (Pegasus) のフランス語読み。戦闘ではテッカマンを乗せる「馬」の役割を果たす。メインスラスターは手の指。そんな設計にもかかわらず足は足として、手の指もまた指として機能している。単独で大気圏離脱を行うこともできるが、緊急時以外は使用することはない。対ガニラ（後述）用にバリアコーティングを施されたこともある。第23話にてボルテッカ三段返しを使用したテッカマン=城二が仮死状態になった際に甦生処置を施したが、その影響でシステムの限界を超えてしまったため、その直後に中破。天地局長たちの尽力により新型のテックセットシステムを搭載され復活。スペースナイツの一員。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』



https://majingai.x.fc2.com

宇宙騎士テッカマン

【南城二（みなみ じょうじ）】声 - 森功至
主人公。名前の由来は「南十字星」。テッカマンに変身できる数少ない人間。その能力を使い、地球を狙うワルダスターとの戦いに身を投じる。元々直情的な性格の上に、考えが異なる場合は相手を暴力で屈服させようとする傾向があった。更には、父をワルダスターに殺害されたことが原因で異星人に対する偏見と憎悪が強く心に刻まれたため、復讐のためにテッカマンの力を使い戦おうとして天地に叱責されることもあり、当初はアンドローとも険悪だった。その異星人に対する悪感情が災いして第11話「失われた宇宙船」では地球と親交を結ぼうと来訪したユーコク星の宇宙船をワルダスターの一味だと決め付けて一刀両断し、唯一の生存者カレンを除き搭乗員を皆殺しにしてしまった。しかし、アンドローとの友情や善人の異星人とのふれあいによって憎しみが薄れてゆき、ワルダスターに支配された他の星も救いたいと考えるようになる。最終話で、リープ航法メカのテストと惑星探査を邪魔して地球を滅ぼそうとするランボスの襲撃を前に任務を仲間に託し、自身はブルーアース号がリープ航法に入るための時間稼ぎのために出撃した。スペースナイツのリーダーであるが、テッカマンであるがゆえに切り込み隊長的役割を担う。

【天地ひろみ（あまち ひろみ）】声 - 上田みゆき
天地局長の娘。城二の恋人でもある。宇宙開発センターで城二とともに働き、行動を共にしている事が多い。スペースナイツの一員になった後もその立場は変わらない。一見おとなしそうに見えるが、実は正義感が強く、ワルダスターが潜入した事を信じてくれなかった少女を信じて現場へ突入したときもある。最終話では、戦場に残る城二を救うかリープに入るかという究極の選択を迫られるが、城二の心情を汲んだアンドローに諭され「第2の地球」を見つけるべく旅立った。

【アンドロー梅田】声 - 山田康雄 / 野沢那智（タツノコファイト）
金髪の巨大なアフロヘアーが特徴のニヒルな男。スペースナイツ参加以前の私服は、ラテン系で纏められていた。名前の由来は「アンドロメダ（星雲）」。実はサンノー星人で、ワルダスターに移住船団を壊滅させられた生き残り。サンノー星は火山爆発が頻発したことで火山灰が太陽の光を遮って氷河期のように凍りついたため、新天地を求めて旅立った末の悲劇だった。
宇宙や異星人に関する知識が豊富であり、非常に高い戦闘能力を有している。ワルダスターの宇宙忍者と同様に光る「影」に変身し壁をも抜けて高速移動しロボットすら破壊するなどの地球人とはかけ離れた怪力やテレポート等の超能力を発揮し、何度かワルダスターの刺客に襲われた天地局長を救った。変身能力を有しており、ワルダスターの宇宙忍者に化けたりもする。
サンノー星人としての真の姿は地球人とは異なる姿である。そのため、アンドローは地球で行動するために地球人に変身しており、勿論「アンドロー梅田」という名前も地球人としての仮の名。天地局長にその能力を買われスペースナイツの一員になった。
最初はサンノー星に帰るため、ワルダスターの宇宙船を入手することを目的にしていた。地球人に対して批判的であり、異星人イコール悪という偏見と父親を殺された復讐心に囚われる城二に特に批判的（彼を「単細胞」と評する）だったが、掛け替えのない存在を殺された彼に対する同情心もあり致命的な対立には至らなかった。次第に地球人との友情を心に芽生えさせ、地球と城二にサンノー星の未来を託し身命を賭して戦うようになる。サンノー星も苦難の道を歩んだ星であり、第8話「宇宙の食人草」でワルダスターの送り込んだ食人植物グリーントラップもかつて祖先を苦しめた存在で、特殊ウィルスを開発して体内に取り入れたという伝説があることを思い出し、自身の血液を提供して地球を救った。また第11話では城二が敵性異星人だと決めつけて殺してしまった両親と仲間の復讐をしようとするカレン（声 - 田浦環）と城二との間で板挟みになり苦しむが、カレンを諭して復讐をやめさせ母星に帰還させてスペースナイツの仲間の元へ戻った。最終回では城二を信じて、ひろみやムータンと共にリープ航法で「第2の地球」を探索する旅に出発した。仮名とはいえ通称は正しくは「アンドロー梅田」だが、エンディングクレジットで何度となく「アンドロ・梅田」と誤表記されることがある。正しく「アンドロー」と表記されているのは第1話 - 第3話、第10話のみ。
演じた山田は『ルパン三世』以外では数少ないテレビアニメのレギュラー作品である。SFアニメ作品に嫌悪感を示していた山田だが、ストーリー及びキャラクター設定が単なる勧善懲悪ではないことを承知してオファーに応じたという。

【ムータン】声 - 小宮和枝
サンノー星のミュータント。ぬいぐるみのような可愛らしい小動物だが、人間と同等またはそれ以上の知能を持つ。アンドローと同じく「影」に変身するほか、目から熱光線を発射したり鋭い聴覚といった超能力を持っており、それを活かしての偵察などを行う。
同郷のアンドローとは仲が良く、スペースナイツの一員のひろみと一緒に行動することが多い。アリ星人のばら撒く病原菌の毒を解毒する成分を有する植物クラムを好んで食べることから、第16話「ミクロ・アリ星人」では自身の血液により血清が作られた。放送当時発売されたかるたには、初期デザインで描かれていた。名前の由来はミュータントの「ミュータン」から。
出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

【カレン】
11話「失われた宇宙船」登場。

2021.07.20

宇宙の騎士テッカマン

【サブタイトル】

話数	サブタイトル	脚本	演出	美術設定
1話	太陽の勇者	鳥海尽三	鳥海永行	野々宮恒男
2話	悪党星団ワルダスター	酒井あきよし	笹川ひろし	野々宮恒男
3話	影狩り宇宙人	陶山智	西牧秀雄	小杉光芳
4話	スペース・ナイツ誕生	永田俊夫 鳥海尽三	原征太郎	野々宮恒男
5話	アステロイド大作戦	永田俊夫	鳥海永行	小杉光芳
6話	月面アリ地獄	久保田圭司	笹川ひろし	野々宮恒男
7話	宇宙輸送船K432	久保田圭司	鳥海永行	小杉光芳
8話	宇宙の食人草	久保田圭司	笹川ひろし	小杉光芳
9話	宇宙忍者シノビーノ	郡幸司	鳥海永行	野々宮恒男
10話	わんぱくテッカマン隊大活躍	永田俊夫	原征太郎	小杉光芳
11話	失われた宇宙船	堀田史門	鳥海永行	野々宮恒男
12話	激突! ロボット軍団	坂本ひろし 鳥海尽三	九里一平	小杉光芳
13話	決死の宇宙海戦	永田俊夫	鳥海永行	野々宮恒男
14話	せまる巨大惑星	久保田圭司	九里一平	野々宮恒男
15話	地球人ぜんめつ作戦	永田俊夫	九里一平	小杉光芳
16話	ミクロ・アリ星人	田口章一	大貫信夫	野々宮恒男
17話	宇宙怪鳥ヒヨクダー	久保田圭司	九里一平	野々宮恒男
18話	大回転・テックランサー	永田俊夫	鳥海永行	小杉光芳
19話	宇宙ランド作戦	久保田圭司	大貫信夫	野々宮恒男
20話	宇宙ロボット・ガニラ	永田俊夫	鳥海永行	野々宮恒男
21話	対決! ぼうけん少女	久保田圭司	原征太郎	小杉光芳
22話	アンドロー危機いっぱつ	堀田史門	大貫信夫	野々宮恒男
23話	ボルテッカ三段返し	久保田圭司	鳥海永行	小杉光芳
24話	砕け! 魔のお化けメカ	陶山智	九里一平	野々宮恒男
25話	ちびっ子勇者の挑戦	永田俊夫	鳥海永行	小杉光芳
26話	勝利のテッカマン	陶山智 鳥海永行	鳥海永行	野々宮恒男

出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

【スタッフ】
製作 - 吉田竜夫
原作 - 竜の子プロ企画室
企画 - 鳥海尽三、陶山智
SF考証 - 小隅黎
プロデューサー - 九里一平、宮崎慎一（NET）
総監督 - 笹川ひろし、鳥海永行
キャラクターデザイン - 天野嘉孝
作画監修 - 二宮常雄
メカニックデザイン - 大河原邦男
演出助手 - 広川和之
制作 - NETテレビ、タツノコプロ
協力 - 第一広告社

【ランボス】声 - 滝口順平
悪党星団ワルダスター団長。黄色い小男の異星人。冷酷で尊大だが、宇宙帝王ドブライに対しては卑屈であり、作戦が失敗する度に土下座して「ごめんなちゃい」と謝るなど、滑稽な一面も持つ。度々地球の要人に化けて地球人を罠に陥れようとする。自身の失敗は必死にドブライに許しを請うのに対し、部下の失敗は即座に処刑する身勝手さを持つ。

【宇宙帝王ドブライ】声 - 桑原たけし
ワルダスターの頂点に立つ存在。人間とは全く異なる姿である（エネルギー生命体ではないかという憶測もあるが、定かではない）。常に映像だけで現れ、その実態は不明である。ランボスの醜態に何度も激怒してお仕置きするが、あまりの失敗続きに逆に呆れ果てて絶句することもあった。没となった第3クール以降の構成案では宇宙帝王ドブライの実態が明かされる予定だった。

1975年

https://majingai.x.fc2.com